

▼葎合分工場 若林清重

右の外職工側速記者及傳令附添ひ出頭、先づ池田委員挨拶を述べ、永留重役は型の如く要求を披見の後交渉は開始せられたり。先づ永留重役「第一お聞きしたい事は會社と雇傭契約を結んだ時の條件はどうであつたか御存じですか。而して此の要求は雇傭契約の範圍に於てされたものか」と問ふ。池田委員代表して然る旨を答へし時山本重役は「會社に御願ひするのが要求か」との擲楡あり。之に對し桑田委員の「要求です、雇傭契約は相互契約ではありません」との答辯ありて會見は最初より議論を以て應酬せられたり。池田委員は「吾々は議論をしに參つたものではない。今日の騒動を納めたいため且つ要求を入れて貰ひたいために來たのです」と代表委員側を制したり。次で濱崎委員口を開きて「今度の争議に就て會社側が何等の理由もなく委員其の他を解雇されたのは如何したのですか」と詰り、永留重役より「萬止むを得ず會社の都合で解雇した」との答辯ありて委員と重役との間に「會社の都合」なる辭句に就て押問答ありたり。更に川島委員は工場委員制その他要求問題に就て詳細なる意見を述べ、重役は「御參考までに聞いて置く」と受け流す。濱崎委員再び臍首問題を持ち出して迫りたるも例に依つて重役は「都合」の二字を以て撃退し、桑田委員と永留重役との間には「この騒ぎを如何に會社側は鎮められるか御成算ありや」「目下頻に考慮中です」「この問題を解決するやうに吾々に工場を任せて煙突から煙が出るやうにしたい」とそれは絶對にお断り致します」との間答あり。森委

員は轉じて「吾々が出て來る時多數の警察官や憲兵が一々咎めてゐたが、あれは會社が依頼したのか何のために來てゐるものか」と詰問せしが永留重役は「私の方は知りませぬ、當局に聞いて下さい」と巧に鋭鋒を外らし、山本重役は「大體今度の争議は流行性感冒にかゝつてゐるやうなものだ」と口外せしより行天委員隙かさず「それを治療して貰ふにはこの要求を容れて貰へば好い」と迫りしも、永留重役は例の如く「それは始めから言明してゐるやうに社長のお歸りまで待つて提出することが諸君の得策だ、強ひて私に解決を與へよとならば微力な權限では拒絶するより外に道はない」膠もなく拒絶したり。茲に於て角田委員の如きは「それではこの要求書を社長のお歸りまで貴方の手許に只お預かり下されば明日からでも仕事をするやうにしませう」と無反省に讓歩したれば永留重役は大いに喜び「それは易いことだ、職工諸君が決議して書面をもつてその事を出せば預かつて相當諸君のために最善の方法を取る」と大いに打解けし態度に出たるが、他の委員が承知せず、結局押問答を以て終始し、會見四時間に及び最後に委員より意見の交換をとの提議あり、結局翌十五日午後二時會見することに決し午後六時十分一同引上げたり。

一方、川崎造船所に先立ちて突如として休業を發表せる三菱三社に於ても連日官憲側の警戒は頗る嚴重なるものありて各工場の要所々々は正私服の警官及び憲兵に依りて固められたるが、職工團の意氣は毫も衰へず、幹部等は愈々持久戰に移るの決心を爲し、休業中は一層結束を固むる爲め各工場職